

2025 年度

国際コミュニティ学部 入試Q&A

(国際政治学科・地域行政学科共通)

目 次

[総合型選抜・学校推薦型選抜に関する一般的 Q&A](#)..... 1

総合型選抜

[課題図書方式の Q&A](#) 2

学校推薦型選抜(公募・専願)

[英語方式の Q&A](#) 4

[課題探究方式の Q&A](#) 6

[指定資格方式の Q&A](#) 8

[学校推薦型選抜\(指定校\)の Q&A](#) 10

[リンク： 総合型選抜・学校推薦型選抜 課題・テーマ\(2025年度\)について](#)

Q1 総合型選抜と学校推薦型選抜(公募・専願)のどちらを受けようか迷っています。

A 成績に関する要件を満たしているか確認した上で、得意な領域は何か、より関心を持てるテーマは何かを踏まえて、考えると良いでしょう。

学校推薦型選抜は、評定平均値の基準を満たしていることが、出願の要件です。基準を満たしているかどうかをまずは確認しましょう。

総合型選抜の課題図書方式では、読むべき課題図書が、学校推薦型選抜(公募・専願)の課題探究方式では、調べておくべき課題が指定されます。世界や日本にある課題を把握する際、図書を用いて理解するやり方と、自分でさまざまな情報に当たって理解するやり方の、どちらが自分にとって取り組みやすいかを考えてみると良いでしょう。取り上げられているテーマを比較して、より関心の持てるものを選択するのもよい方法です。課題図書方式と課題探究方式で取り上げられるテーマについて、人の考えを理解したうえで、自分自身の意見を述べるのが得意な人に向いているといえます。

英語が得意という人は学校推薦型選抜(公募・専願)の英語方式を、時事能力、地理などの資格に挑戦し合格実績のある人は、学校推薦型選抜(公募・専願)の指定資格方式を活用すると良いでしょう。

なお、いずれの試験方式の場合も面接が行われます。

[→目次に戻る](#)

課題図書方式という入試について

Q1 総合型選抜の課題図書方式の良い勉強方法がありますか。

A まずしっかりと課題図書を読みましょう。

総合型選抜の試験内容は、あらかじめ指定された課題図書に関連する設問に答えるという形式です。課題図書をよく読み、書かれている内容や著者の主張をしっかりと理解しましょう。そのうえで、より興味がわいた箇所や分からなかった箇所を自分で調べたり、関連する図書や文献にも目を通したりしてみると良いでしょう。また取り上げられているテーマや著者の意見に対して、自分自身がどのように考えるかについても、まとめてみると良いでしょう。地域行政学科については、課題図書で取り上げられている事例の類似事例(他の自治体の事例)などを調べることもお勧めです。

Q2 総合型選抜の課題図書方式の小論文試験の際に、課題図書を持ち込んで参照することはできますか？

A いいえ、できません。

小論文試験は事前に課題図書をよく読みこんでいること、関連する基礎的知識を獲得していることを前提として実施します。ですから、早めに課題図書を入手して内容を理解し、関連する基礎的知識を得ておきましょう。

Q3 11月に合格した場合、入学までどのように過ごせばよいでしょうか？

A 入学準備学習に必ず参加してください。

総合型選抜で合格されたみなさんには、入学準備学習を実施します。これには、キャンパス学習と通信課題があります。高校での学習に加え、この準備学習により、入学するまでの時間を有効活用してください。例えば、英語や他の資格試験など、比較的時間のかかる勉強に取り組むことも視野に入れことも有益でしょう。地域でのボランティア活動など、学校以外でのさまざまな社会体験を重ねることも良いでしょう。

出願書類について

Q4 「自己アピール書」にある「地域活動」とはどのようなことですか？

A 地域のイベントや催し物の運営に携わった場合や、地域で行われている活動に日常的に参加している場合などです。

地域のイベント・行事・催し物を企画・運営したり、それらに出展したりしたことがあれば記載してください。また公民館や町内会などで地域の人々のつながりを維持・強化したり、問題を解決するために行われている活動に、日常的に参加している場合は、その経験を記載しましょう。部やクラブとして関わった場合、個人で関わった場合のいずれでも結構です。

Q5 「自己アピール書」にある「留学」について、期間や行先に制限がありますか？

A 特にありません。中学校・高等学校在学中などに留学経験がある場合、ぜひ記入してください。

中学校・高等学校在学中などの留学であれば、期間や行先を問わず、留学を通して経験したことや考えたこと、学んだことについてぜひ記入してください。

面接について

Q6 面接ではどのようなことが聞かれるのでしょうか。どう答えてよいか不安です。

A 臨機応変に自分の言葉で。

面接では、志望理由書、自己アピール書など出願時の提出書類に基づいて、面接担当教員がアドミッションポリシーを踏まえて質問をします。受験生の回答に対して、根拠や理由をより深く尋ねたり、別の角度・立場から質問したりするなどして、より発展的なやりとりへ向かうこともあります。ですから、面接においては、あらかじめ丸暗記したことをそのまま話すのではなく、落ち着いて、臨機応変に、ポイントを押さえながら、自分の言葉でしっかり答えることが重要です。そのためには、志望理由や進学して学びたいこと、将来などについて、自分の考えをしっかり整理しておきましょう。

Q7 面接時に参考文献やノート・メモ等の参照物を持ち込むことはできますか？

A いいえ。面接時は何も持ち込めません。

課題図書について

Q8 課題図書はどこで入手できますか？

A 広島修道大学の生協ブックストアを通して購入できます。一般書店やショッピングサイトでも購入可能です。

広島修道大学生協ブックストアからご購入される場合は、以下の URL、または QR コードから購入ページにアクセスしてください。

- ・ URL (本学入試情報サイト) : <http://bit.ly/3WF8fUd>



[→目次に戻る](#)

英語方式という入試について

Q1 英語方式とはどのような方式ですか。

A 大学での学びに対応できる学力があるかどうかを、英語の筆記試験を通じてはかる試験方式です。英語の筆記試験にはヒアリングは含みません。英語の筆記試験に加え、面接をおこないます(面接の一部で英語による質疑を行う場合もあります)。

Q2 12月に合格した場合、入学までどのように過ごせばよいでしょうか？

A 入学準備学習に必ず参加してください。

学校推薦型選抜で合格されたみなさんには、入学準備学習を実施します。これには、キャンパス学習と通信課題があります。高校での学習に加え、この準備学習により、入学するまでの時間を有効活用してください。例えば、英語や他の資格試験など、比較的時間のかかる勉強に取り組むことも視野に入れてはいかがでしょうか。地域でのボランティア活動など、学校以外でのさまざまな社会体験を重ねることも良いでしょう。

出願書類について

Q3 「自己アピール書」にある「地域活動」とはどのようなことですか？

A 地域のイベントや催し物の運営に携わった場合や、地域で行われている活動に日常的に参加している場合などです。

地域のイベント・行事・催し物を企画・運営したり、それらに出展したりしたことがあれば記載してください。また公民館や町内会などで地域の人々のつながりを維持・強化したり、問題を解決するために行われている活動に、日常的に参加している場合は、その経験を記載しましょう。部やクラブとして関わった場合、個人で関わった場合のいずれでも結構です。

Q4 「自己アピール書」にある「留学」について、期間や行先に制限がありますか？

A 特にありません。中学校・高等学校在学中などに留学経験がある場合、ぜひ記入してください。

中学校・高等学校在学中などの留学であれば、期間や行先を問わず、留学を通して経験したことや考えたこと、学んだことについてぜひ記入してください。

面接について

Q5 面接ではどのようなことが聞かれるのでしょうか。どう答えてよいか不安です。

A 臨機応変に自分の言葉で。

面接では、志望理由書、自己アピール書など出願時の提出書類に基づいて、面接担当教員がアドミッションポリシーを踏まえて質問をします。受験生の回答に対して、根拠や理由をより深く尋ねたり、別の角度・立場から質問したりするなどして、より発展的なやりとりへ向かうこともあります。ですから、面接においては、あらかじめ丸暗記したことをそのまま話すのではなく、落ち着いて、臨機応変に、ポイントを押さえなが

ら、自分の言葉でしっかり答えることが重要です。そのためには、志望理由や進学して学びたいこと、将来などについて、自分の考えをしっかり整理しておきましょう。

Q6 面接時に参考文献やノート・メモ等の参照物を持ち込むことはできますか？

A いいえ。面接時は何も持ち込めません。

[→目次に戻る](#)

課題探究方式という入試について

Q1 課題探究方式のねらいは何ですか？

A 国際コミュニティ学部の学びでは時事的な問題が多く扱われます。国際社会や日本が抱えるさまざまな問題にはさまざまな要素・要因が入り組んでいるので、全体像を把握するには、多様な情報を探しだし、多様な人々の考え方に触れながら、思考を深めていく必要があります。そうすることで、ひとつの問題にもさまざまな見方があること、解決にも様々なアプローチ(方策)があることが理解できるようになります。国際コミュニティ学部が重視する「問題解決・課題解決」を実践するには、このような態度で問題に向き合うことが必要です。そこでこの入試では、あらかじめ指定された国際・国内社会における課題について、主体的に情報を集め、取捨選択し、論点を発見し、考えを形成できるかどうかを確認したいと考えています。試験当日は、各自が課題について調べたことを踏まえて、その課題に関する試験に取り組んでもらいます。

Q2 小論文試験の際に、関連する図書や資料、ノート・メモ等を持ち込んで参照することはできますか？

A いいえ、できません。
小論文試験は事前に課題について理解・把握していること、関連する基礎的知識を獲得していることを前提として実施します。ですから、早めに準備をし、内容を理解し、また関連する知識を得ておきましょう。

Q3 12月に合格した場合、入学までどのように過ごせばよいでしょうか？

A 入学準備学習に必ず参加してください。
学校推薦型選抜で合格されたみなさんには、入学準備学習を実施します。これには、キャンパス学習と通信課題があります。高校での学習に加え、この準備学習により、入学するまでの時間を有効活用してください。例えば、英語や他の資格試験など、比較的時間のかかる勉強に取り組むことも視野に入れてはいかがでしょうか。地域でのボランティア活動など、学校以外でのさまざまな社会体験を重ねることも良いでしょう。
また、入試で各自が取り組んだ課題について、試験日後も継続して探究しつづけることを強く期待します。

出願書類について

Q4 「自己アピール書」にある「地域活動」とはどのようなことですか？

A 地域のイベントや催し物の運営に携わった場合や、地域で行われている活動に日常的に参加している場合などです。
地域のイベント・行事・催し物を企画・運営したり、それらに出展したりしたことがあれば記載してください。また公民館や町内会などで地域の人々のつながりを維持・強化したり、問題を解決するために行われている活動に、日常的に参加している場合は、その経験を記載しましょう。部やクラブとして関わった場合、個人で関わった場合のいずれでも結構です。そのほか、地域課題や社会課題に関する探究を行ったり、関連するセミナーやシンポジウム、ワークショップ等に参加したりしたことがあれば記載してください。

Q5 「自己アピール書」にある「留学」について、期間や行先に制限がありますか？

- A** 特にありません。中学校・高等学校在学中などに留学経験がある場合、ぜひ記入してください。
中学校・高等学校在学中などの留学であれば、期間や行先を問わず、留学を通して経験したことや考えたこと、学んだことについてぜひ記入してください。

面接について

Q6 面接ではどのようなことが聞かれるのでしょうか。どう答えてよいか不安です。

A 臨機応変に自分の言葉で。

面接では、志望理由書、自己アピール書など出願時の提出書類に基づいて、面接担当教員がアドミッションポリシーを踏まえて質問をします。受験生の回答に対して、根拠や理由をより深く尋ねたり、別の角度・立場から質問したりするなどして、より発展的なやりとりへ向かうこともあります。また、課題探究にどのように取り組んだのかについての説明も求めます。ですから、面接においては、あらかじめ丸暗記したことをそのまま話すのではなく、落ち着いて、臨機応変に、ポイントを押さえながら、自分の言葉でしっかり答えることが重要です。そのためには、志望理由や進学して学びたいこと、将来などについて、自分の考えをしっかりと整理しておきましょう。

Q7 面接時に、参考文献やノート・メモ等の参照物を持ち込むことはできますか？

A いいえ。面接時は何も持ち込めません。

[→目次に戻る](#)

指定資格方式という入試について

Q1 どういう方式ですか？

A 時事問題、地理、英語、歴史、数学などに関連した資格を持っている人が受験できます。英語関連だけでなく、数学、社会に関連した資格を導入している点が特徴です。該当する資格を持っているなら、ぜひ挑戦してみたいかがでしょうか。評定平均値 3.5 以上が必要ですが、これをクリアしていれば、あとは落ち着いて面接に臨みましょう。

Q2 12月に合格した場合、入学までどのように過ごせばよいでしょうか？

A 入学準備学習に必ず参加してください。

学校推薦型選抜で合格されたみなさんには、入学準備学習を実施します。これには、キャンパス学習と通信課題があります。高校での学習に加え、この準備学習により、入学するまでの時間を有効活用してください。例えば、英語や他の資格試験など、比較的時間のかかる勉強に取り組むことも視野に入れてはいかがでしょうか。地域でのボランティア活動など、学校以外でのさまざまな社会体験を重ねることも良いでしょう。

出願書類について

Q3 「自己アピール書」にある「地域活動」とはどのようなことですか？

A 地域のイベントや催し物の運営に携わった場合や、地域で行われている活動に日常的に参加している場合などです。

地域のイベント・行事・催し物を企画・運営したり、それらに出展したりしたことがあれば記載してください。また公民館や町内会などで地域の人々のつながりを維持・強化したり、問題を解決するために行われている活動に、日常的に参加している場合は、その経験を記載しましょう。部やクラブとして関わった場合、個人で関わった場合のいずれでも結構です。

Q4 「自己アピール書」にある「留学」について、期間や行先に制限がありますか？

A 特にありません。中学校・高等学校在学中などに留学経験がある場合、ぜひ記入してください。

中学校・高等学校在学中などの留学であれば、期間や行先を問わず、留学を通して経験したことや考えたこと、学んだことについてぜひ記入してください。

面接について

Q5 面接ではどのようなことが聞かれるのでしょうか。どう答えてよいか不安です。

A 臨機応変に自分の言葉で。

面接では、志望理由書、自己アピール書など出願時の提出書類に基づいて、面接担当教員がアドミッションポリシーを踏まえて質問をします。受験生の回答に対して、根拠や理由をより深く尋ねたり、別の角度・立場から質問したりするなどして、より発展的なやりとりへ向かうこともあります。ですから、面接においては、あらかじめ丸暗記したことをそのまま話すのではなく、落ち着いて、臨機応変に、ポイントを押さえながら、自分の言葉でしっかり答えることが重要です。そのためには、志望理由や進学して学びたいこと、将来などについて、自分の考えをしっかりと整理しておきましょう。

Q6 面接時に参考文献やノート・メモ等の参照物を持ち込むことはできますか？

A いいえ。面接時は何も持ち込めません。

[→目次に戻る](#)

学校推薦型選抜(指定校)という入試について

Q1 学校推薦型選抜(指定校)を受けられるかどうか、わかりません。どうしたらよいのでしょうか？

A 高校の担任の先生や進路担当の先生に尋ねてください。

推薦を依頼する高校(指定校)には、広島修道大学から依頼状を届けています。高校によって時期は異なりますが、学校推薦型選抜(指定校)を希望する生徒の募集があるでしょう。その際には、評定平均値などの出願要件をクリアしているかを確認してください。

Q2 12月に合格した場合、入学までどのように過ごせばよいのでしょうか？

A 入学準備学習に必ず参加してください。

学校推薦型選抜(指定校)で合格されたみなさんには、入学準備学習を実施します。これには、キャンパス学習と通信課題があります。高校での学習に加え、この準備学習により、入学するまでの時間を有効活用してください。例えば、英語や他の資格試験など、比較的時間のかかる勉強に取り組むことも視野に入れてはいかがでしょうか。地域でのボランティア活動など、学校以外でのさまざまな社会体験を重ねることも良いでしょう。

面接について

Q3 面接ではどのようなことが聞かれるのでしょうか。どう答えてよいか不安です。

A 臨機応変に自分の言葉で。

面接では、志望理由書など出願時の提出書類に基づいて、面接担当教員がアドミッションポリシーを踏まえて質問をします。受験生の回答に対して、根拠や理由をより深く尋ねたり、別の角度・立場から質問したりするなどして、より発展的なやりとりへ向かうこともあります。ですから、面接においては、あらかじめ丸暗記したことをそのまま話すのではなく、落ち着いて、臨機応変に、ポイントを押さえながら、自分の言葉でしっかり答えることが重要です。そのためには、志望理由や進学して学びたいこと、将来などについて、自分の考えをしっかりと整理しておきましょう。

Q4 面接時に参考文献やノート・メモ等の参照物を持ち込むことはできますか？

A いいえ。面接時は何も持ち込めません。

[→目次に戻る](#)